

教員名	熊谷 圭知 (KUMAGAI Keichi)
所 属	文教育学部人文科学科地理学講座
学 位	社会学修士 (1981 一橋大学)
職 名	教授
URL/E-mail	kumagai@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

開発 / ジェンダー / パプアニューギニア / ローカル / (人口) 移動

◆主要業績

総数 (3) 件

・熊谷圭知ほか編『ジェンダーの視点から開発の「場所」を考える——開発実践者・研究者のコラボレーションをめざして——』(若手支援のためのワークショップ報告書) (F - G E N S publication series No. 10) 2005年9月、156p.

・熊谷圭知『『ジェンダーと開発』における男性の位置』F - G E N S ジャーナル (お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア」) 5、2006年3月 : pp.337 - 346.

・熊谷圭知「グローバル化の中のオランダ移民社会——モルッカ移民に焦点をあてて——」、山本健児編『グローバリゼーションと EU 統合への文化的対応に関する EU 主要都市比較研究』(科研費研究成果報告書)、2005年5月、pp.178-186.

◆研究内容

1. ローカル・センシティブな「開発とジェンダー」研究の構築に関する研究

2005年3月28日～8月9日まで、イギリスのサセックス大学開発学研究所(Institute of Development Studies)に客員研究員として滞在し、上記のテーマに関して、研究所スタッフとの意見交換、研究発表、文献資料の収集などを行なった。

2. パプアニューギニアにおける開発とジェンダーに関わる調査研究

2005年2月と8月に、パプアニューギニアを訪問し、首都のポートモレスビーで、長年調査を続けている都市移住者集落の社会環境、路上販売などのインフォーマル・セクターの調査を、住民からの聴き取りを交えて行なった。調査成果の一部は、熊谷が主宰する COE のプロジェクト研究会 (10 月) と、日本オセアニア学会 (3 月) にて報告した。

1.2 の研究成果を、ジェンダーと開発における男性/性という視点から、論文にまとめたのが、熊谷 (2006) である。

◆教育内容

学部の授業では、「地域研究」「人間と空間」「グローバル文化学総論」「外国地誌演習」などの科目を担当した。その中では、ローカルな空間/地域がけって固定的なものではなく、常に外部との関わりの中で変化してきたし、現在も変化し続けていることを、具体的な事例を通じて示した。わたしたちが、地域の特質や文化の固有性としてイメージしているものが歴史的に構築されていることは、多くの学生にとって、新鮮な衝撃をもたらすものであったようだ。大学院の授業では、第三世界の開発論を再考するというテーマを掲げ、都市のスラムやインフォーマル・セクター、ジェンダー、参加型開発などのテーマを、新たな批判的な視点で取り上げた英語論文を、私が独自にリストアップして、検討した。院生たちの既成概念を崩すような刺激的な問題提起に触発されて、活発な議論を導き出すことができた。私が主宰する COE のプロジェクト (ローカル・センシティブな「開発とジェンダー」政策の構築) の研究会も、貴重な教育の場として活用している。学部の授業では、「地域研究」「人間と空間」「グローバル文化学総論」「外国地誌演習」などの科目を担当した。その中では、ローカルな空間/地域がけって固定的なものではなく、常に外部との関わりの中で変化してきたし、現在も変化し続けていることを、具体的な事例を通じて示した。わたしたちが、地域の特質や文化の固有性としてイメージしているものが歴史的に構築されていることは、多くの学生にとって、新鮮な衝撃をもたらすものであったようだ。大学院の授業では、第三世界の開発論を再考するというテーマを掲げ、都市のスラムやインフォーマル・セクター、ジェンダー、参加型開発などのテーマを、新たな批判的な視点で取り上げた英語論文を、私が独自にリストアップして、検討した。院生たちの既成概念を崩すような刺激的な問題提起に触発されて、活発な議論を導き出すことができた。私が主宰する COE のプロジェクト (ローカル・センシティブな「開発とジェンダー」政策の構築) の研究会も、貴重な教育の場として活用している。

◆将来の研究計画・研究の展望

グローバルに普遍的な価値を持つものとして捉えられてきた「開発とジェンダー」というテーマを、ローカルなコンテキストを組み込むものとして、フィールドワークに基づきながら再構築することが、主宰する COE の研究プロジェクト、科研費の研究会を通じての、当面の課題である。同時に、1979 年以来続けてきた、パプアニューギニアのフィールドワークに基づく地域研究を、一冊の本にまとめ、多くの読者に、グローバル化の中で変貌し呻吟するパプアニューギニアの人々のリアリティを伝えたいと考えている。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

・発展途上国都市における生活環境の改善と社会開発

◆受験生等へのメッセージ

私がパプアニューギニアと付き合い始めて、もう 27 年になります。都市周縁部の掘っ立て小屋集落や、奥地の村をフィールドとしながら、人々との付き合いを重ねるうちに、地域研究と開発実践の二つの領域を往還するようになりました。途上国を対象とする調査研究には、冷静な頭脳と熱い心、理解と共感の双方が必要です。西欧中心的な概念や理論だけに基づいて、研究対象を他者として捉え、分析するだけでは、先進国が途上国を支配する力が強まるだけで、相互の格差や距離は縮まらないように思います。お互いの間に横たわる違いをきちんと見据え、その差異を大切にしながら、そこにとどまらない交流や協働の可能性を探ろうとする、そんな学生を育てたいと思っています。

